



中間報告まとめ

(2024年4月1日～9月30日活動分)

助成先一覧

①環境保全活動 13件

特定非営利活動法人 チャウス

特定非営利活動法人 湘南クリーンエイドフォーラム

特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

特定非営利活動法人 ジョイライフさやま

特定非営利活動法人こが里山を守る会

特定非営利活動法人草木谷を守る会

特定非営利活動法人 棚田LOVERS

認定特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊

認定特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所

NPO法人 Gomi - Map

次世代のためにがんばる会

瀬戸内海宇治島クラブ

一般社団法人Rondat

②環境教育・研究活動 3件

特定非営利活動法人 吉里吉里国

認定特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク

公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

③「食」課題解決・「食」支援に関わる活動 1件

一般社団法人 フードバンクいしのまき

チャウス（群馬県）

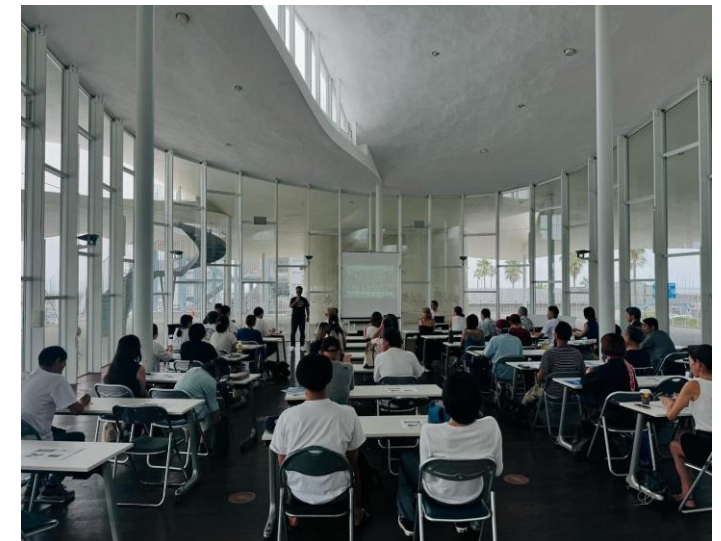
活動内容	【地球規模の気候変動調査研究】 気候変動が与えるサケの遡上現象の研究・調査 ▲下記の活動に関係する準備、関係団体との調整など ※ 実施日は10月以降 【親子対象】 ①ヤマメの卵の配布～育てたヤマメの稚魚放流 ※環境学 習・清掃活動含む 11月～3月 ②地域環境発展プログラム～川の生物環境調査、増殖活動、 自然増殖活動等 11月～3月 【持続可能な社会実現のための指導者育成】 環境学習指導者養成 10月・2月 【地球規模の気候変動調査研究】 気候変動が与えるサケの遡上現象の研究・調査 10月・3月
活動実績	2023年度：計8回 参加者（延べ）：227人、スタッフ42人 内容：わたらせ川の環境保全・保護活動を年間を通じて計8 回開催。わたらせ川流域の小学生親子を対象として、「ヤ マメの卵を配布～稚魚になるまで育て～稚魚を放流する」 活動や、魚な様々な増殖方法を学習し、「ヤマメの卵の直 まき放流」を実際に行うなど、体験を活動を通じて、私達 にも（家庭でも）出来る環境を行動を考え、実践（行動変 容）していくためには？を考え、環境保全・保護の大切さ、 あり方を学習しました。



湘南クリーンエイドフォーラム（神奈川県）



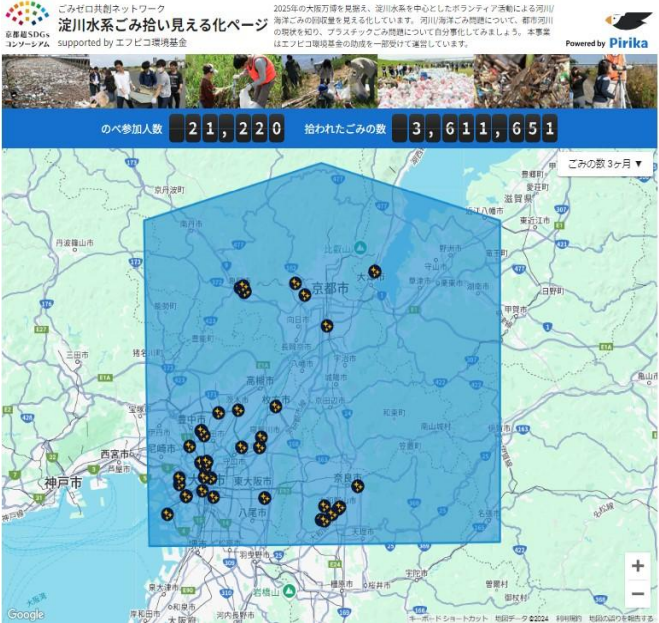
活動内容	ごみを拾いながらごみの動向を調査しごみの発生抑制に繋げていく『調べるビーチクリーン』を根源療法として用い、広域エリアを網羅する効率的な保全体制の構築を目指します。神奈川の150kmの海岸を一貫清掃・調査する『ビーチクリーン駅伝』と、多くの団体と協同開催する一斉ビーチクリーン『オールオーシャンラバーズビーチクリーン』との相乗効果を図り、多様な団体がワンボイス化した連携体制を築きます。
活動実績	当会は環境保全と経済発展のバランスを図り、持続可能な社会への変容を目指して、Think globallyな視点でAct locallyな活動を精力的に展開しています。海・川・街でのクリーン活動をベースにした調査活動、啓発活動、パートナーシップ活動などを年間60回以上実施しています。



荒川クリーンエイド・フォーラム（東京都）



活動内容	大阪・関西万博開催を契機に荒川で実績がある「産学官民協働持続方式」を関西圏に技術移転する取組を継続する。1.ごみゼロ共創ネットワークとしてつながり、関西圏プラットフォームの基盤強化支援、2.当該方式を通じた自治体/市民/企業の協働支援、3.ボランティアによるごみ回収量の見える化（ごみ拾いSNSピリカやごみマップアプリ）と活動に積極的な組織の発掘を継続する。プラごみ問題のステークホルダーとして日本プラスチック工業連盟、（一社）西日本プラスチック製品工業協会、関西広域連合と協調する。
活動実績	淀川水系見える化ページには9月現在で延べ2.1万人の活動が記録されている。 5/30はごみゼロ共創ネットワーク主催の淀川清掃に参加した。 関西圏の企業による河川/海洋ごみ問題に関する相談が増加傾向にある。



ジョイライフさやま（埼玉県）

活動内容	小さな樹林を守ることで多種多様な生態系を守ることを大事に、手入が行き届かず、汚染が進む河川の整備清掃を行い安心安全な景観を作り出していきます。ごみの減量は私たちの取り組むべき環境保全の一環と成り、自然体験を交えながら自然の大切さを実感し環境の知識を学べる活動と成っています。
活動実績	環境保全活動により得られた景観は持続可能な社会を支える生物多様性保全に繋がり、緑多き環境を作り出しています。川を散策する人々の心を癒し、感謝の言葉を頂いています。環境の保全を知ってもらう、河川を使う自然体験は次代を担う子供たちが、人との環境のかかわりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や保全の大切さを自ら考え、行動する力を育成出来ていると感じています。6月に開催した野菜収穫体験では野菜の知識や食の大切さを学び、大きく育ったジャガイモをスコップを使い収穫の喜びや楽しみを感じて貰いました。同じ6月に一級河川入間川に於いて生き物指標による水質調査を行い、身近な水環境を調べる体験を行いました。好奇心によって時代の新しい未来を拓くことが出来る体験と成っています。7月に行われたカヤック体験は森や川と暮らす地域の環境問題を考える、きっかけとなる交流会と成り、河川のごみの処理を持続可能にすることへの課題を解決するアクションとなる事業とも成っています。8月に行われた地曳網体験は多種多様な生態系により森や川が作られており、環境や生態系の変化は生きる事にも影響を与えることを学びます。川で見つけた生き物や草木で発想力や想像力を養い、どの体験でもごみの散乱による自然界流失課題に向け、ごみが生態系や水に及ぼす環境問題の学習を学びながら環境保全に取り組んでいきます。



こが里山を守る会（茨城県）

活動内容	里山整備活動・自然環境保全啓発活動・自然環境体験活動
活動実績	地元の上大野小学校児童参加による里山体験活動及び市民参加の里山観察会開催 2024・4.14 下刈活動 4.21 下刈活動 5.12 観察会(市民参加のコンサート会場整備) 5.18 観察会開催準備 5.19観察会開催 6.9(京三電機・積水化成品社員参加のCSR活動下刈・タニウツギ枝剪定) 6/16視察研修会開催(千葉県茂原市の紫陽花農園視察上大野小児童参加のスズメバチ捕獲器設置体験活動 6/19上大野小1～3年生参加によるスズメバチの捕獲器設置体験活動 7/21下刈作業 9/6下刈作業 9/15下刈作業 9/18上大野小1～3年生里山の恵み体験活動(山栗拾い)10/13下刈作業 10/20下刈作業 10/30上大野小1～3年生里山の空地地活用した「さつま芋掘り体験活動」



草木谷を守る会（秋田県）

活動内容	石川理紀之助ゆかりの谷津田「草木谷」での農作業体験や生き物観察を通じ、地域文化への愛着と生物多様性への理解を深め、次世代に持続可能な環境保全の意識を伝えながら地域社会を活性化し、参加者間の交流を促進することで、未来に向けた地域資源の価値継承を目指します。
活動実績	5月29日、石川翁の郷「草木谷」で開催された「リキノスケ未来塾」において、未来塾生とブラウブリッツ小学生チームが手植えによる田植えに挑戦しました。この日は田植え日和の好天に恵まれ、田んぼには子どもたちの明るい笑顔があふれていました。参加者からは「田植え楽しい！」「ぬるぬるして気持ちいい！」といった声上がり、楽しそうな様子が印象的でした。さらに、田んぼの生き物観察では、ヤツメウナギ、カワニナ、オニヤンマのヤゴ、サンショウウオなどの貴重な水生生物が見つかり、子どもたちは夢中になって観察していました。これらの体験を通して、自然や農業の魅力を実感しながら、未来の豊かな食と環境について学ぶ姿が心に残りました。草木谷の豊かな自然に囲まれ、田んぼに賑わいが戻り、まるでリキノスケも喜んでいるかのようなようでした。今後も参加者たちは協力し合い、草取り、稲刈り、脱穀を行いながら、美しい田園風景を守り続けていきます。



棚田LOVERS（兵庫県）

活動内容	《目的》地域や伝統文化、自然環境を大切にする心を育む。 《概要》あらゆる年齢層を対象として、地域にある棚田や川などの自然資源を活用した五感を刺激する自然体験活動を通して、農業や食事、そして自然や生命の大切さを伝える。活動は地域住民、自治会、高等教育機関などとも連携し、地方創生や地域の魅力伝承、そしてイベント評価にも努めた。 《具体的な目標》 自然環境を大切にする心を育む活動には月1回程度で各回10名程度の参加を目指した。
活動実績	自然資源を活用した体験活動や環境教育から自然や地域の魅力を伝えると共に、棚田の再生をはじめとする環境保全や、地域活性にアプローチしようとする試みであり、社会的意義は大きく、今後の先進事例にもなりうるものとして取り組んだ。 ○地域の棚田や畑、川などの自然資源を活用したアウトドアイベント 開催場所：兵庫県神崎郡市川町の棚田・自然フィールドや古民家 1)開催日：5月25日（土）（参加者23名（うちスタッフ3名））、26日（日）（参加者29名（うちスタッフ3名））：春のダンダン感動体験 内容 25日：旬の野菜の収穫・料理・種まき体験、稲わらから綱づくりワークショップ、BBQ、星空ライブ 26日：田植え唄を流しながら、田植え体験、泥んこレスリング 上記を通じて、食・自然環境を大切にする心を伝えた。 エフピコ社員にも参画いただいた。 2)開催日：6月8日田植え体験を通じて、棚田自然の大切さを伝えた。（参加者12名（うちスタッフ3名）） 3)開催日：8月11日：棚田での生き物観察、川遊び、そうめん流しを通じて、棚田自然の大切さを伝えた。 （参加者14名（うちスタッフ3名））。



神奈川海難救助隊（神奈川県）



活動内容	船舶で隊員及び一般ボランティアが甲板上から玉網等を使い、海洋浮遊ごみ等を甲板上設置の回収籠にすくい上げます。回収した浮遊ごみ等は分別分類して清港会に引き取ってもらいます。
活動実績	2024年4月1日から2024年9月8日までの間で毎月1回活動実施で、東京湾海域の海洋浮遊ごみ回収活動を6回実施しました。 活動参加者は当隊員が42人で一般ボランティアが11人でした。 内容は当隊員と一般ボランティアが船舶の甲板上から玉網等を使い、甲板上設置の回収籠にすくい上げます。回収した浮遊ごみは分別分類をし、清港会に引き取ってもらいました。 浮遊ごみ回収物は発泡スチロール類6kg・ビニール類8kg・ペットボトル74本・カン12個・ビン2本・木材類93.5kg・竹1.5kg・特殊回収物（パラソル・クーラーボックス・バイクタイヤ等）37kgで浮遊ごみ回収総重量は約148kgでした。 今回の活動実施で沢山の海洋浮遊ごみ（ビニール類等）を回収し、東京湾海域のマイクロプラスチックの減少に貢献する事が出来ました。



河北潟湖沼研究所（石川県）

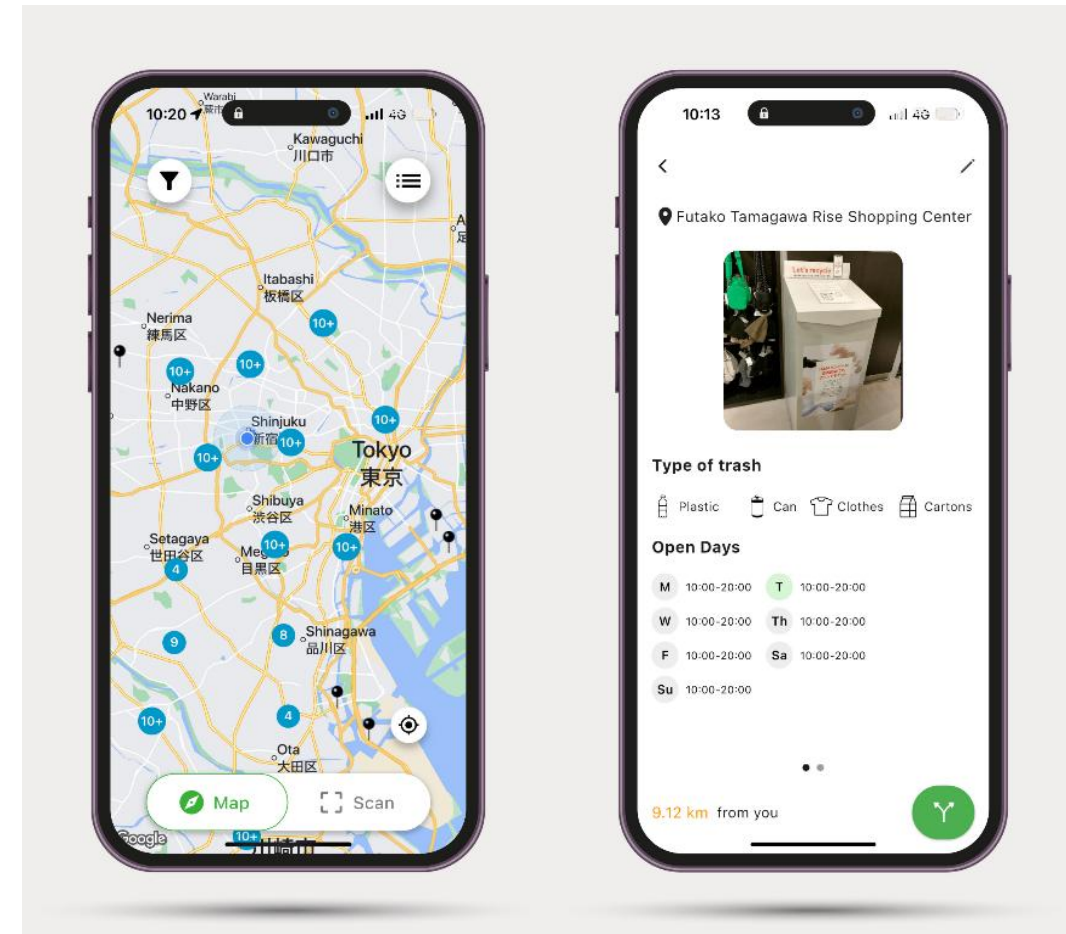


活動内容	河北潟流域では地域によりゴミの状況や捉え方に違いがあり、流域全体で取り組む意識が弱い。本活動では流域を巡りながらゴミ拾いをする仕組み（ゴミ拾いラリー）を作り、流域内でゴミ問題について見える化、共有化をめざす。同時に自然環境への関心を高める。
活動実績	（1）河北潟クリーン作戦ゴミ調査 開催日時：4月21日（日） 参加者：5人 内容：河北潟の湖岸でのゴミ拾い活動で拾われたゴミを細かく分別し、ゴミの種類や量を記録しました。 （2）河北潟カヌー体験・カヌーでゴミ拾い 開催日時：8月25日（日） 参加者：29人 内容：森下川河口から河北潟にかけての湖岸で、カヌー体験と共にゴミ拾い活動を実施しました。陸上では土中の細かなゴミもできるだけ拾いました。実践活動と共に、水生植物の観察、河北潟の歴史や生きもの紹介なども行い、河北潟の魅力を伝えることができました。また一地点参加につき、スタンプが一つたまる「河北潟流域ゴミ拾いスタンプラリー」を開始し、河北潟流域の各地で実施するゴミ拾い活動への継続した参加を促しています。



Gomi-Map（神奈川県）

活動内容	アプリの開発、リサイクルスポット調査
活動実績	Gomi-Mapは、リサイクルの促進とゴミ削減を目的としたNPOであり、その活動は大きな成果を上げています。まず、新しいマーケティング素材の作成により、プロジェクトの認知度を高め、ターゲット層への訴求力を強化しました。また、ホームページのデザインを内製化し、Gomi-Mapの理念をより反映させた新しいデザインを導入。現在も開発は進行中であり、ユーザーの利便性向上を図りつつ、信頼性の高い情報提供を目指しています。 さらに、iPhoneおよびGoogle向けのアプリを開発・リリースし、ユーザーが手軽にリサイクルスポットを検索できるような環境を提供しました。これにより、幅広い層へのアクセスが可能となり、リサイクルへの関心と行動を促進しました。加えて、リサイクルスポットの継続的な追加とデータの質の向上を通じて、より正確かつ信頼できる情報を提供し、ユーザーのリサイクル活動をサポートしています。 Gomi-Mapのこれらの活動は、持続可能な社会に向けた大きな一歩を踏み出すものです



次世代のためにがんばる会（熊本県）

活動内容	九州の各県で浜辺の保全活動をしている高校生同士が交流体験型で学び、各地ごみ問題の発生抑制の問題提起と対策案を討論することで、活動の裾野を広げるとともに、国内から流出する河川ごみを削減する企画と、地域の環境保全として干潟の調査、不法投棄視察、食品ロス・安全問題の講演会、トレーのリサイクル見学、教育関係への資源分別指導を行った。
活動実績	1. 県外高校生体験交流活動 ①「九州SDGsサミットin長崎」 ごみ問題について九州各地の高校生と交流検討会開催 2024年7月27～（土）28日（日）参加者：長崎、福岡（2校）、熊本の高校生、講師、スタッフ 合計50人 2 地域保全活動 ①八代海干潟再生（生きもの調査・塩生植物増殖）定期活動 *5月25日36人参加*6月10日6人参加*7月6日10人参加*8月18日15人参加 ②八代海護岸不法投棄視察会 5月25日17人参加 ③食品ロス改善、食の安全講演会 6月8日（日）50人参加、八代高校での講演会 6月17日（金）280人参加 ④水無川の水質と生きもの調査（3か所）7月6日（土）8人参加 ⑤エフピコ佐賀選別センター見学 8月6日（火）12人参加 ⑥資源分別・食品ロス問題の授業：7月23日（いずみ児童クラブ72人）、7月29日（東陽キッズクラブ31人）、7月30日（八千把ジュニアクラブ50人）、7月31日（八千把こあらクラブ50人）、8月1日（こむぎクラブ40人）、8月1日（千丁いぐささこクラブ50人）、8月2日（代陽児童クラブ24人）、8月5日（高田放課後クラブ20人）、8月5日（しらぬい会郡築児童クラブ20人）、8月5日（とうぶ児童クラブ45人）合計402人へ授業を行った。前半企画参加者合計1,012人



瀬戸内海宇治島クラブ（広島県）

活動内容	瀬戸内海国立公園内に位置する無人島「宇治島」の豊かな自然を守るため、毎年海の日に200人乗りのフェリーをチャーターし、福山港から宇治島に渡り砂浜に漂着した海洋ごみの清掃を行っている。清掃後は海水浴や釣り、島の散策を行い宇治島の魅力を体感してもらう。
活動実績	活動日時：2024年7月15日「海の日」 活動場所：広島県福山市走島町宇治島 参加人数：115名 活動内容： 1.清掃活動とともに、海面浮遊ゴミや漂流物の現状を知り参加者に瀬戸内海の環境保全の重要性を学んでもらう。 2.実際に回収した浮遊ゴミをみてもらい身近なゴミが流れ着いていることを認識してもらう。 3.自由時間には宇治島の自然の魅力を感じてもらい瀬戸内海の魅力を感じてもらう。



Rondat（京都府）

活動内容	子どもたちと考える里山環境問題
活動実績	開催日時：5月19日（日） 参加人数：17名、スタッフ4名 内容：『持続可能な農業』野菜を無農薬でつくすることで環境負荷の少なく、地産地消をすることで運送にかかるco2の削減、保管期間短縮にともなう電力量の削減が見込め、環境に優しい活動であることを伝えた。 5月開催『野菜の苗植え』4月開催時に植えた『オクラ』・『ピーマン』・『きゅうり』・『スティックセニョール』の種がどのようにして成長したかを聞き、観察する。 その後、苗の定植を行う。種から育て自分たちで収穫し調理体験することで食べものの大切さを自然と学び、食品ロスにつなげる。



吉里吉里国（岩手県）

活動内容

【森林教室の実施計画】

スケジュール：月1回、年間12回の森林教室を開催

対象：大槌町内の小中高生、未就学児、支援学級児童、その家族

目標人数：約300人

活動実績

《目的》海が見える森林内や薪の作業場等で森林教室を開催し、この地域を取り囲む豊かな自然と共に生きる次世代の人材を育成する。森を活用することが海洋資源にも影響していくことを学ぶ機会を設ける。

(1) 5月11日(土)薪割体験&海と森の繋がりのお話@海を望む薪の作業場／町内の中高生10名

(2) 6月5日(水)ピザ作り体験&海と森の繋がりのお話@海を望む薪の作業場／町内の小中学生と保護者21名

(3) 7月3日(水)自然と共に生きる暮らしのお話@町内の中学校／町内の中学生10名

(4) 7月22日(月)木工教室「大槌の木に絵を描いてトンカチで組立てよう」、海と森の繋がりのお話／町内の小学生1～6年生6名

(5) 8月7日(水)ツリークライミング体験、海と森の繋がりのお話／町内の小学生1～6年生32名

(6) 8月8日(木)木工教室「大槌の木をトンカチで組立てよう」、海と森の繋がりのお話／町内の小学生1～6年生31名

(7) 8月12日(月)木工教室「大槌の木に絵を描いてトンカチで組立てよう」、海と森の繋がりのお話／町内の小学生1～6年生13名

(8) 8月22日(木)ツリークライミング体験、海と森の繋がりのお話／町内の子どもたちと保護者たち10名

(9) 9月26日(木)森林散策&海と森の繋がりのお話+薪割体験／町内の小学3年生10名



とす市民活動ネットワーク（佐賀県）

活動内容	もくもく広場の実施：未就園児親子を対象とした木製おもちゃ広場（年8回程度開催）参加者延500人。
活動実績	場所：フレスポ鳥栖ウエルカムコート 10：30～13：00 ・2024年4月11日（木）44人 スタッフ2人 5月16日（木）58人 スタッフ2人 6月20日（木）66人 スタッフ2人 9月12日（木）44人 スタッフ2人 活動内容：未就園児親子対象に佐賀県産積み木・木のおもちゃ遊びの広場を開催。 国産材の需要拡大のために木に親しみを持ってくれる子どもを増やす取り組みを行った。



みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（宮城県）

活動内容

「みやぎのSDGs環境学習支援」として、二つの事業を展開している。SDGs環境出前講話では、宮城県内の小中学校、高校において1回限定の講話を行うとともに、ウェブ教材を使用して気候変動対策の行動を促す。SDGs教育プロジェクトでは、学校等からの要請によって継続した環境・防災学習の支援を行う。

活動実績

「みやぎのSDGs環境学習支援」として二つの事業を展開してきた。
《SDGs環境出前講話》
キリバス編、南極編、七つの環境・防災編と多様な講話を用意して、学校のニーズに応じていった。宮城県内すべての小中学校、高校にチラシを配布して開催校を募集した結果、計34校、約2500名が受講予定である。
《SDGs教育プロジェクト》
学校等からの要請に沿った環境・防災学習の継続的な支援を行ってきた。小学校や市民センター、児童館でグリーンカーテンの支援を行った。その他、気象・防災、環境・防災、川環境、SDGsとそれぞれの学習テーマに沿った支援を行ってきた。
《ウェブ教材の使用とデータ回収》
講話実施校及びプロジェクト校においてウェブ教材「わたしたちのSDGsライフスタイル～家庭でできる54個の行動～」を使用してもらい、具体的な対策と効果（CO2削減量と節約金額）を理解させ、行動を促していった。CO2削減量と節約金額のデータは回収・ダウンロードすることができるようにした。



一般社団法人フードバンクいしのまき（宮城県）



活動内容	①拠点となる事務所・倉庫物件の確保及び専従スタッフの補充 ②食品ロス削減の啓発を行う「フードドライブ」設置箇所の増設 ③食品ロス削減に関する講話の実施。
活動実績	①拠点となる事務所・倉庫物件の確保及び専従スタッフの補充 宮城県登米市内中心部に倉庫兼事務所機能を有した賃貸物件を確保、契約を行うことが出来た。 また、下記②で市民から寄せられた食品を集約することができている。地域企業からも当法人の活動に対し、理解と協力を得ることができており、玄米や常温保存食品の寄贈に繋がっている。 ②食品ロス削減の啓発を行う「フードドライブ」設置箇所の増設 新たに登米市内で2箇所の大手スーパーと共同でのフードドライブを実施するに至っている。 更に地域で活動する登米市社会福祉協議会（本所及び8支所）でも市民向けに家庭に眠ったままの余剰食品の提供を受付ける事業に対し、当法人でも助言等を行いながら食品寄贈の増加を見込んでいる。 ③食品ロス削減に関する講話の実施 宮城県石巻好文館高校1，2年生（50名）へのSDGs探求学習での講師を担当した。 石巻赤十字看護専門学校1年生延べ62名「地域・在宅看護論」で講師を務める（残2回有）

